

# 薬害資料データ・アーカイブズ の基盤構築・活用に関する 実践的研究

藤吉圭二(追手門学院大学社会学部)

第21回薬害を学び再発を防止するための  
教育に関する検討会  
2022年1月25日 オンライン参加

1

## 0. 本日の報告

1. これまでの研究活動
2. 今年度の研究活動
3. 今後の展望

2

## 1. これまでの研究活動(1)

---

- そもそものはじまり
- 「薬害肝炎事件の検証及び再発防止のための医薬品行政のあり方検討委員会」の提言(2010年4月)

3

## 2. これまでの研究活動(2)

---

- すべての国民に対する医薬品教育を推進するとともに、二度と薬害を起こさないという行政・企業を含めた医薬関係者の意識改革に役立ち、幅広く社会の認識を高めるため、薬害に関する資料の収集、公開等を恒常的に行う仕組み(いわゆる薬害研究資料館など)を設立すべきである

4

### 3. これまでの研究活動(3)

---

- 2013-2014(金慶南)薬害に関する資料等の調査・管理・活用等に関する研究
- 2015(金慶南)薬害資料データ・アーカイブズの基盤構築に関する総合研究
- 2016. 4～2021.7 大阪人権博物館
- 2021.7～ 大阪市内港のテナントビルに移転

5

### 4. 今年度の研究活動(1)

---

- 作業スペースにて当事者団体資料の調査と整理  
...福岡スモンについてはアイテムレベルまでの調査・目録作成がほぼ完了
- オンライン研究会  
...広島スモン基金のデジタルアーカイブ紹介

6

## 5. 今年度の研究活動(2)

---

- 福岡スモン資料調査に基づく研究報告会(2022年3月5日 13:30-16:00)
- 現状報告:藤吉
- 資料整理方法論と検索実演  
島津良子・下山千尋(奈良女子大学)
- スモン資料・箱別の特徴:  
小森達郎(立命館大学)
- コメント:橋本陽(京都大学大学文書館)

7

## 6. 今年度の研究活動(3)

---

- 資料を保管する原告団・弁護団への訪問調査
- 被害の記憶を伝える資料館への訪問調査
- ...いずれも頓挫中(2019年度にハンセン病資料館と西淀川公害資料館で実施にとどまる)

8

## 7. 今年度の研究活動(4)

---

- 「二度と薬害を起こさない」
- ...薬品による被害を起こさないという意味に限定すれば、製薬・医療関係者および監督官庁の役割が大きい。
- ...一般国民は「消費者教育」レベルか
- ...あえて被害者団体の資料を保存(ゆくゆくは公開)する意義はどこにあるか

9

## 8. 今年度の研究活動(5)

---

- 被害者団体資料保存の意義
- 現状では公開されていない製薬企業資料・行政資料の存在を知る手がかり
- 「薬で健康を冒された人々にはどのような困難が降りかかるか」を知る手がかり
- 狭い意味での薬害に限らず、副作用被害に遭った人々への支援方法検討の手がかり

10

## 9. 今年度の研究活動(6)

---

- 証言映像研究班・被害者運動研究班
- 内容については別途報告あり

11

## 10. 今後の展望(7)

---

- 資料の調査と整理はそれなりに進んだ
- しかし、
- 「資料整理」だけでは「資料館の準備」は進まない(資料のない資料館は考えられないが、資料だけあっても資料館とは言えない)。
- →そろそろ資料館のあり方そのものの検討にも着手する時期

12

## 11. 今年度の研究活動(7)

---

- 資料整理は粛々と(細々と)続けつつ、
- 展示やアウトリーチなども含めた資料館機能について検討する必要
- →新たな研究班体制へ

13

---

長い間ありがとうございました。  
ひきつづきのご支援をお願いいたします。  
K-fujiyoshi@otemon.ac.jp

14